



わ
輪

富岡 勝則

皆さんこんにちは。

春は出会いの季節です。新品の大きなランドセルを背負って登校する子どもたちの姿はとてもほほえましくて、つつい後ろから「がんばって」と声をかけたくなってしまいます。私もこの3月で市長として2期目の折り返しを迎え、早いもので就任してから7年目になります。義務教育では中学1年生に当たります。これからも初心を忘れずに、市民の皆さんに「朝霞に住んで本当によかった」と言っていただけ、元気なまちづくりを進めていきたいと思えます。

さて、東日本大震災が発生してから2か月近くがたとうとしています。関東では、電車も平日ダイヤに戻り、計画停電も原則として実施されなくなるなど、以前の平穏さを取り戻しつつあるようです。しかし被災地では、いまだに13万人以上の方が避難所

生活を送り、福島第一原子力発電所での懸命の作業も、まだまだ予断を許さない状況です。私はこのような国難ともいえる状況を乗り越えるためには、すべての国民が心をひとつにして、被災地を応援することが大切だと思っています。そこで朝霞市としても、できる限りのことをしたいと思い、旧第四小学校のプレハブ教室を避難所として開設し、また、市民の皆さんからミネラルウォーターやおむつなどの生活用品を提供してもらい、現地へ送りました。さらに、直接被災地で作業をする職員の派遣準備も進めています。私は全国の自治体が支援の輪を広げ被災地を応援していけば、いつか必ず復興の光が見えてくると信じています。

ところで、今回の震災による被害がこれほど大きくなった理由は、津波が防災計画などで想定していたよりも、数倍の高さで襲ってきたことによるものです。さらに福島第一原子力発電所では、炉心などを冷却する電源の機能が津波で失われてしまい、水素爆発などによる放射能汚染で多くの方が避難をしなければならぬ状況になってしまいました。よく「備えあれば憂いなし」といいますが、備えはいくらあってもいいと思います。私は今回の震災を教訓に、市民の安全を守るため、朝霞市の備えである「防災計画」を見直してみようと考えています。ではまた。

春のきれいなまちづくり運動

問/環境保全課 内2262 ☎463-1504

実施日/5月29日(日)

内容/住みよい環境をつくるため、自治会等のご協力により、市内全域を対象とした「春のきれいなまちづくり運動」を行います。皆さんの積極的な参加をお願いします。



実施方法/各自治会等を中心に、道路に散乱しているごみや空き缶などの収集やその処理を行います。次のことにご協力ください。

- ・回収車が進入可能な場所に集める
 - ・集積場所はできるだけ分散しないようにする
 - ・ごみは、「資源とゴミの分け出し方」を参考に分別する
- ※道路上の回収物の中に家庭から出されたと思われる粗大ごみ等が見受けられます。家庭からのごみは出さないでください。
※雨天等により実施日を変更する場合は変更日時・ごみの収集場所をご連絡ください。

朝霞市は 男女平等を進めています

—市民意識調査結果から見てきたこと②— 「地域活動参加状況」

地域活動への参加状況は、「いずれの活動にも参加しなかった」が55.7%と最も多く、次いで、「自治会や町内会の活動」が20.6%、「趣味やスポーツのグループ活動」が17.2%となっています。平成16年度の調査結果をみると「いずれの活動にも参加しなかった」は49.9%で、5.8ポイントも増えていることが分かります。また、個々の活動への参加も全体的に減少しています。

今、災害時などにおける地域力の必要性が求められています。しかし、実際には地域社会の希薄化がどんどん進んでいるのが現状です。

災害時だけでなく、これからは単身世帯の増加や家族形態の変化に伴い、日ごろからのコミュニティ作りが重要となってきます。地域力を高めていくためには、女性も男性も誰もが出番と居場所のある地域社会を形成していくことが大切であり、もっとも身近な暮らしの場である地域におけるさまざまな取り組みが不可欠となります。

*このコラムは、「朝霞市男女平等推進事業企画・運営協力員」との協働により掲載しています。

問/人権庶務課 内2255 ☎463-2697

ひとの推移

人口 13万0,764人 (+320人) 世帯数 5万9,144世帯
 男 6万6,787人 (+157人) (+222世帯)
 女 6万3,977人 (+163人) 平成23年4月1日現在()内は前月比